

---

---

# 板橋区多文化共生に関する意識調査報告書

---

---

概要版

令和 7 年 1 月

板 橋 区

## 目 次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 調査概要 .....                        | 1  |
| I. 調査の目的 .....                    | 1  |
| II. 調査実施の概要 .....                 | 1  |
| 調査結果 .....                        | 3  |
| 1. 調査回答者の属性 .....                 | 3  |
| 2. 調査結果の主な項目 .....                | 7  |
| (1) 板橋区の住みやすさと定住意向（外国人、日本人） ..... | 7  |
| (2) 生活情報の入手意向と入手方法（外国人） .....     | 8  |
| (3) ことばについて（外国人、日本人） .....        | 9  |
| (4) 地域での生活や活動について（外国人、日本人） .....  | 12 |
| (5) 災害時・緊急時の対応（外国人、日本人） .....     | 13 |
| (6) 子育てや教育について（外国人、日本人） .....     | 15 |
| (7) 多文化共生に対する意識（外国人、日本人） .....    | 17 |

# 調査概要

## I. 調査の目的

板橋区では、区内在住の外国人が3万7千人（令和7年1月1日時点）を超えている現状を踏まえ、国籍や民族のちがいを認め合い、だれもが安心して暮らせる「多文化共生のまちづくり」を推進している。

本調査は、地域での実情や区民ニーズを把握し、今後の行政サービスに調査結果を役立てることを目的に実施した。

## II. 調査実施の概要

区内の外国人区民3,000人、日本人区民2,000人を対象に、地域生活や活動状況、区民ニーズ等について把握するために、アンケート調査を実施した。

### (1) 調査期間

令和6年8月23日（金）～9月20日（金）[29日間]

### (2) 調査対象と抽出方法

|      |  |                     |
|------|--|---------------------|
| 調査対象 | 外国人区民調査  | 区内に居住する18歳以上 3,000人 |
|      | 日本人区民調査  | 区内に居住する18歳以上 2,000人 |
| 抽出方法 | 外国人区民調査  | 住民基本台帳から単純無作為抽出     |
|      | 日本人区民調査  |                     |
| 調査方法 | 郵送調査(郵送配付一郵送回収)<br>※外国人区民調査では、抽出した対象者の国籍に合わせて、日本語ルビ付きと言語別調査票を組み合わせた。 |                     |

### (3) 調査項目

| 外国人区民調査(全45問)     | 日本人区民調査(全25問)     |
|-------------------|-------------------|
| 1. 板橋区の住みやすさと定住意向 | 1. 板橋区の住みやすさと定住意向 |
| 2. 生活情報の入手意向と入手方法 | 2. ことばについて        |
| 3. ことばについて        | 3. 地域での生活や活動について  |
| 4. 地域での生活や活動について  | 4. 災害時・緊急時の対応     |
| 5. 災害時・緊急時の対応     | 5. 子育てや教育について     |
| 6. 子育てや教育について     | 6. 多文化共生に対する意識    |
| 7. 多文化共生に対する意識    |                   |

### ※居住地域区分

|          |   |
|----------|---|
| 1. 板橋地域  | 板橋 1～4 丁目、稲荷台、大山町、大山金井町、大山西町、大山東町、加賀 1～2 丁目、熊野町、幸町、栄町、中板橋、仲宿、仲町、中丸町、氷川町、富士見町、双葉町、本町、南町、大和町、弥生町  |
| 2. 常盤台地域 | 大谷口 1～2 丁目、大谷口上町、大谷口北町、上板橋 1～3 丁目、小茂根 1～5 丁目、桜川 1～3 丁目、東新町 1～2 丁目、常盤台 1～4 丁目、東山町、南常盤台 1～2 丁目、向原 1～3 丁目  |
| 3. 志村地域  | 小豆沢 1～4 丁目、泉町、大原町、坂下 1 丁目[27 番・29 番～41 番を除く]、清水町、志村 1～3 丁目、中台 1～3 丁目、西台 1 丁目・西台 2 丁目[30 番 5 号～16 号・31 番～40 番を除く]・西台 3 丁目[47 番・55 番～57 番を除く]・西台 4 丁目、蓮沼町、東坂下 1 丁目、前野町 1～6 丁目、宮本町、若木 1～3 丁目 |
| 4. 赤塚地域  | 赤塚 1～8 丁目、赤塚新町 1～3 丁目、大門、徳丸 1～8 丁目、成増 1～5 丁目、西台 2 丁目[30 番 5 号～16 号・31 番～40 番]・西台 3 丁目[47 番・55 番～57 番]、三園 1 丁目、四葉 1～2 丁目   |
| 5. 高島平地域 | 相生町、坂下 1 丁目[27 番・29 番～41 番]・坂下 2～3 丁目、新河岸 1～3 丁目、高島平 1～9 丁目、蓮根 1～3 丁目、東坂下 2 丁目、舟渡 1～4 丁目、三園 2 丁目  |

### (4)回収結果

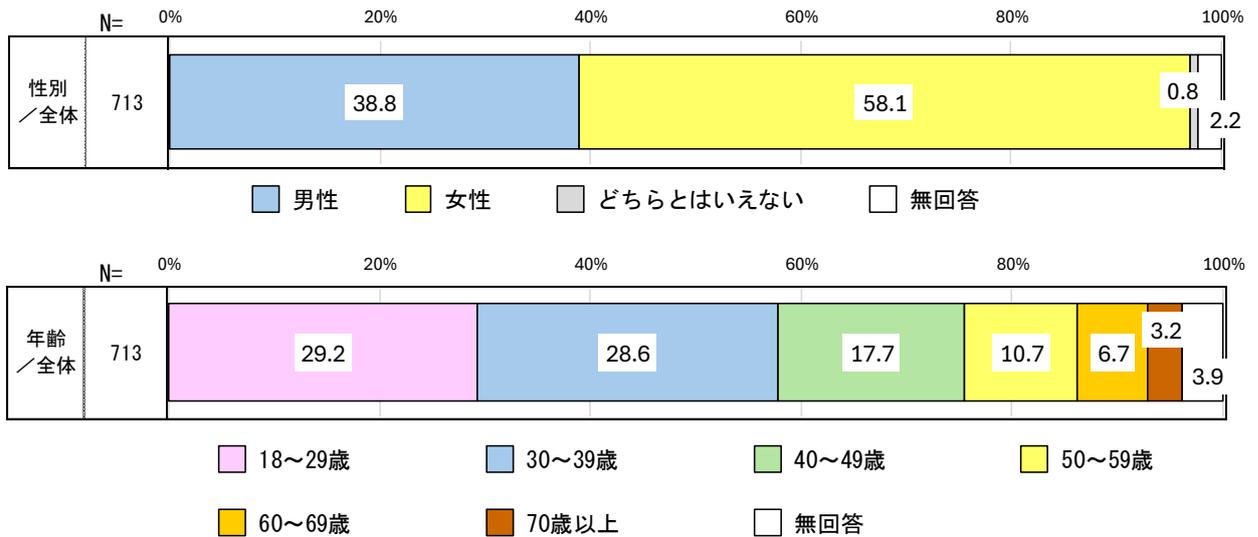
|          | 外国人区民調査 | 日本人区民調査 | 備考                                    |
|----------|---------|---------|---------------------------------------|
| 配付数(票)   | 3,000 票 | 2,000 票 |                                       |
| 不達数(票)   | 65 票    | 4 票     | 宛先不明分                                 |
| 有効配付数(票) | 2,935 票 | 1,996 票 | (配付数)-(不達数)                           |
| 有効回収数(票) | 713 票   | 737 票   |                                       |
| 有効回収率(%) | 24.3%   | 36.9%   | (有効回収数)÷(有効配付数)×100<br>※小数点以下第二位を四捨五入 |

# 調査結果

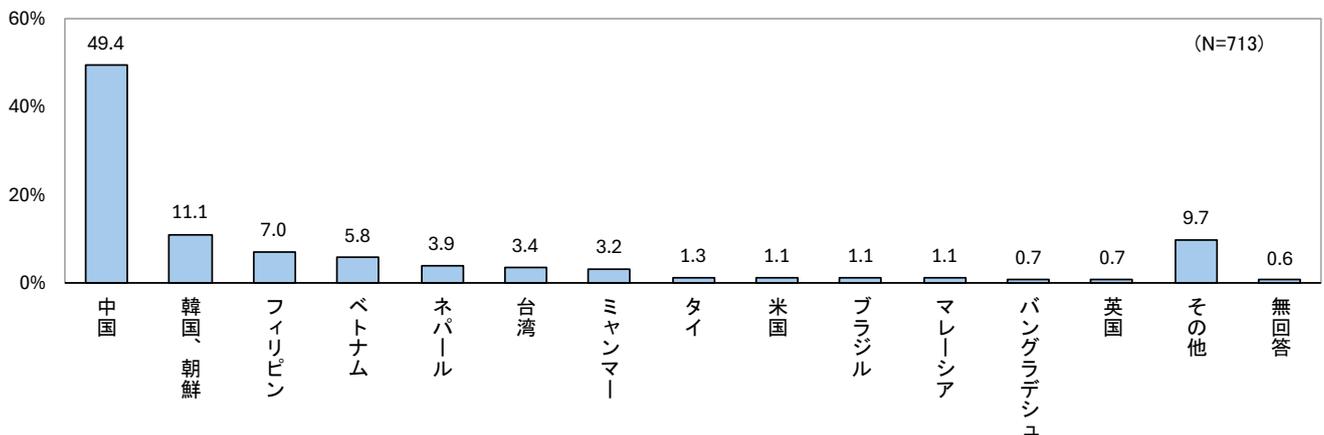
## 1. 調査回答者の属性

### (1) 外国人区民

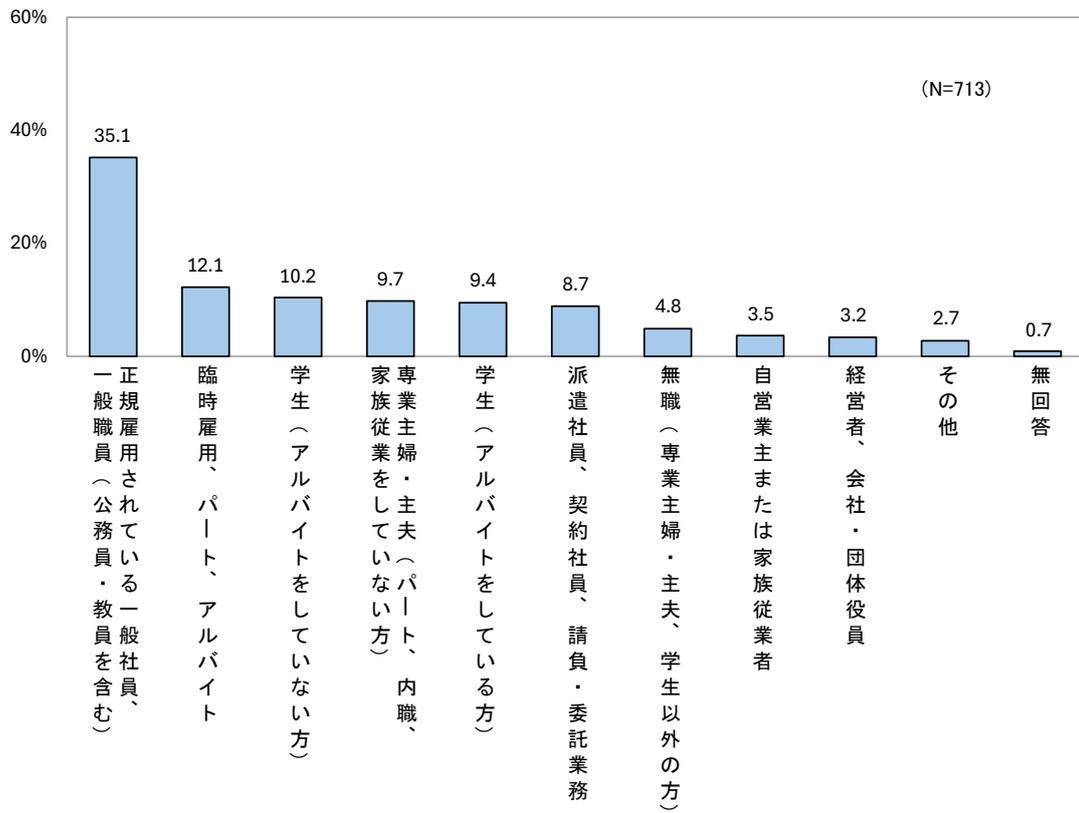
#### ① 性別と年齢（問1）



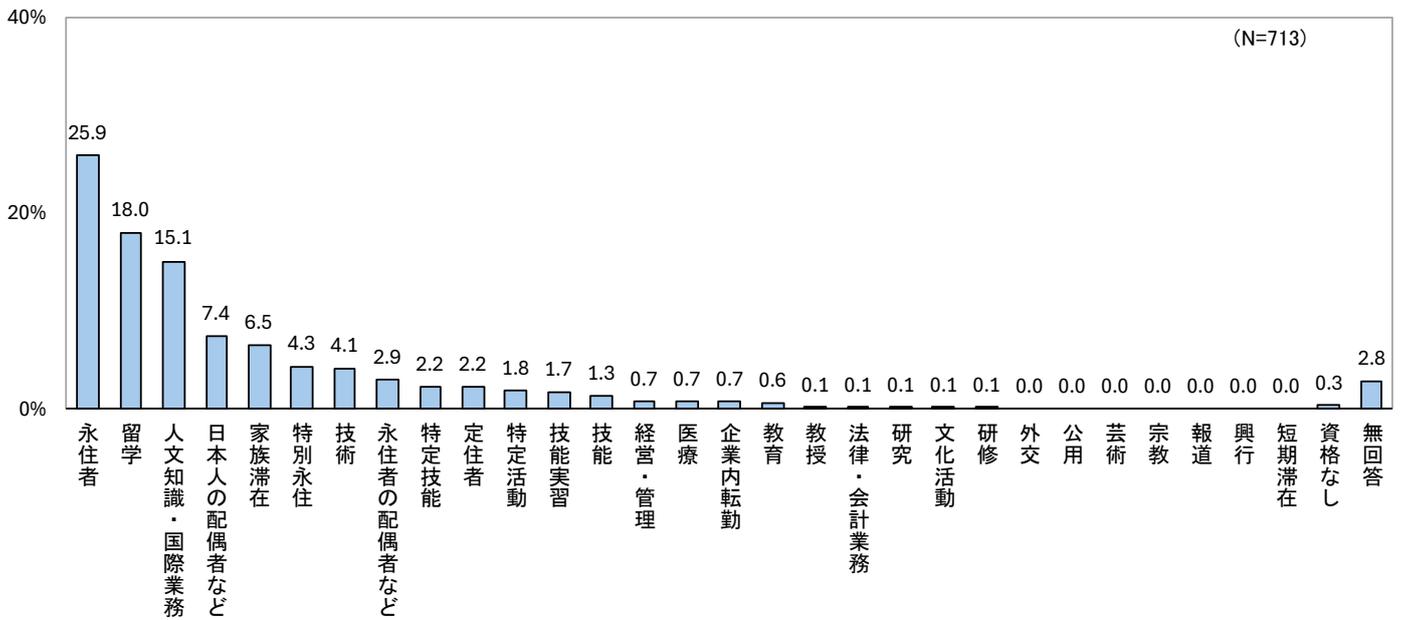
#### ② 国籍（問2）



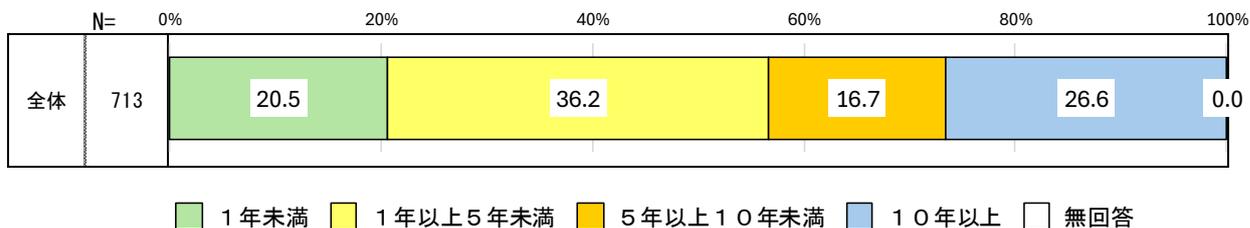
③職業（問3）



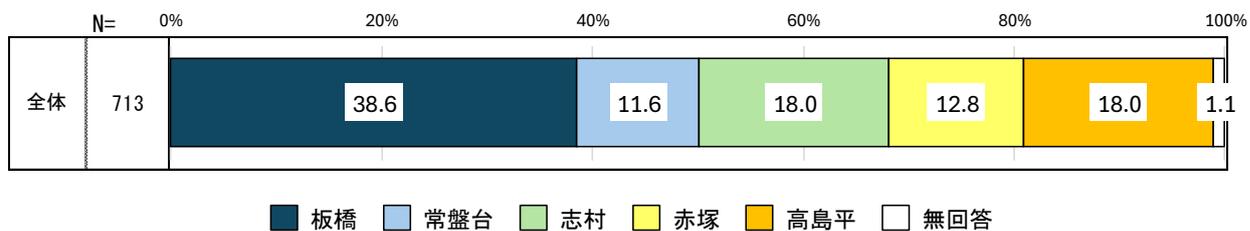
④在留資格（問4）



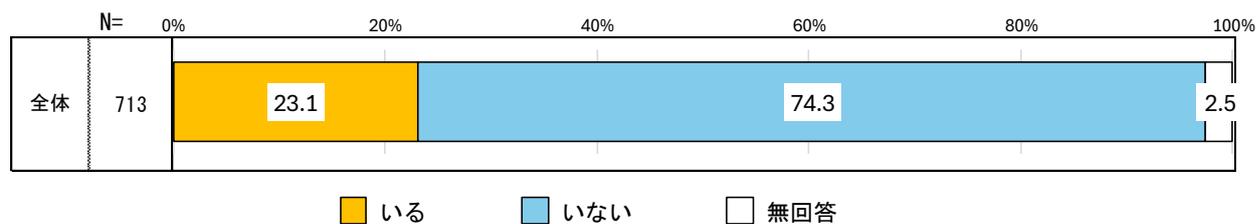
⑤板橋区での居住年数（問5）



⑥居住地域（問8）

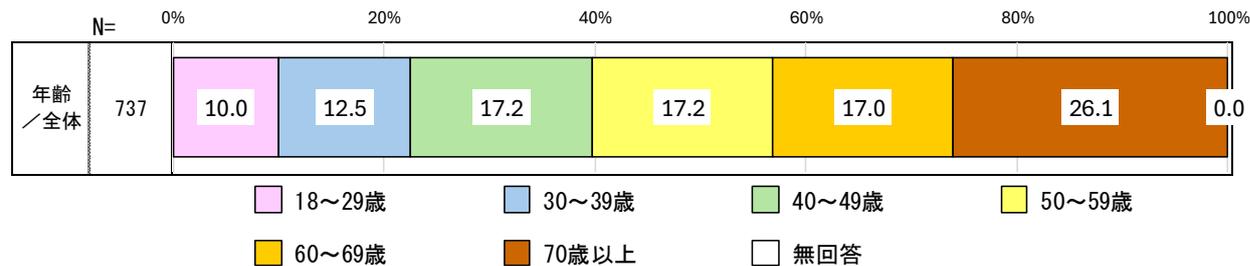
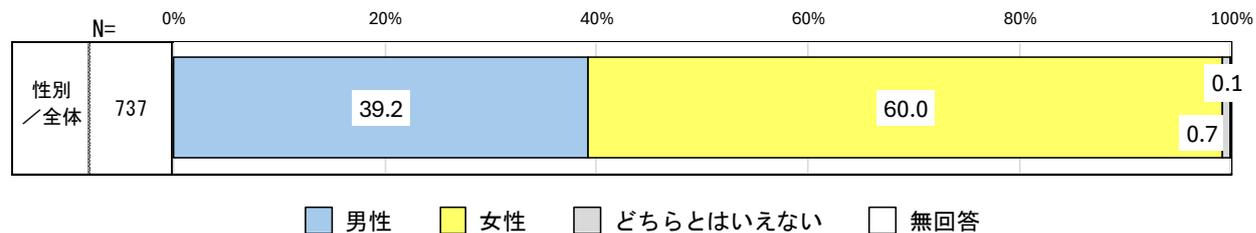


⑦子どもの有無（問33）

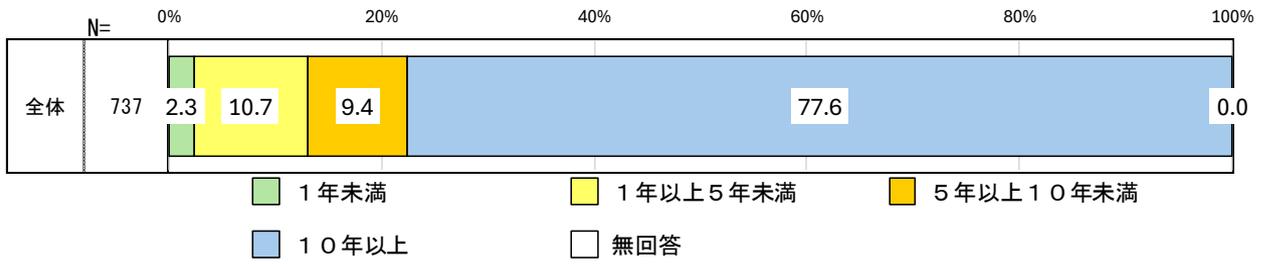


(2)日本人区民

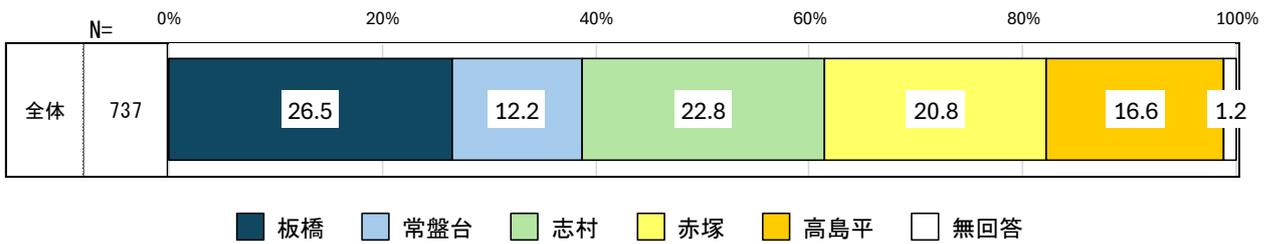
①性別と年齢（問1）



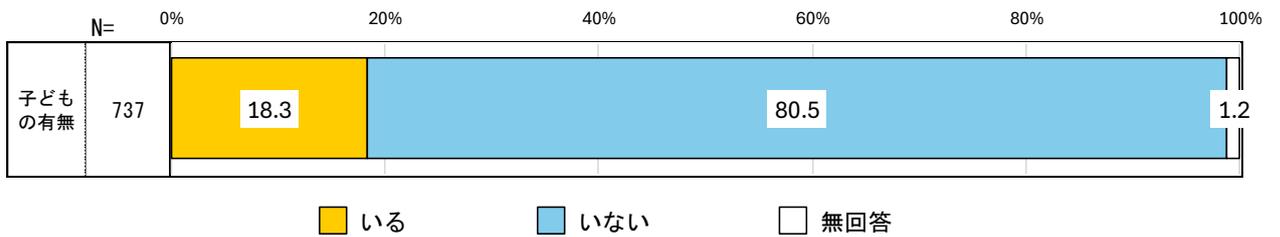
②板橋区での居住年数（問2）



③居住地域（問3）



④子どもの有無（問17）

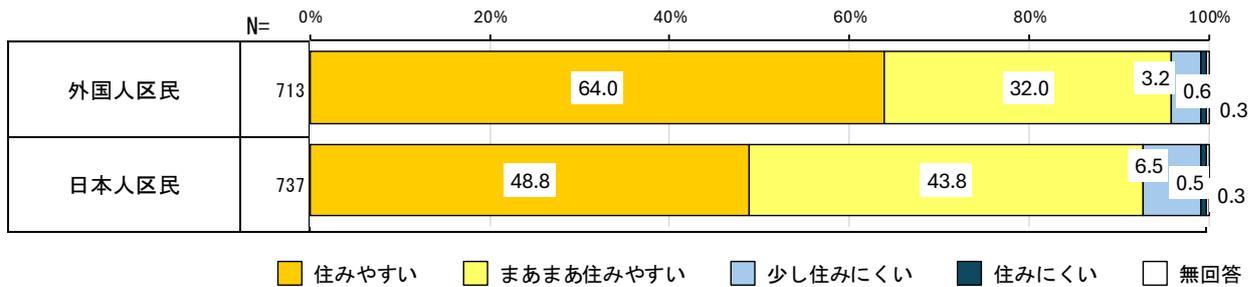


## 2. 調査結果の主な項目

### (1) 板橋区の住みやすさと定住意向(外国人区民:問6・7、日本人区民:問3・4)

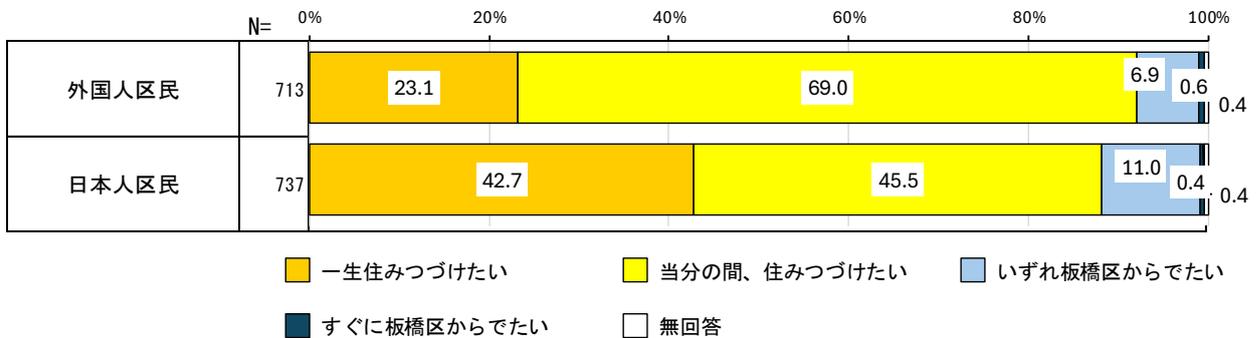
板橋区に住みやすいと感じている割合(「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計)は、外国人も日本人も9割を超えている(外国人96.0%、日本人92.6%)。

住みやすさの比較



板橋区に住みつづけたいかどうかの定住意向(「一生住みつづけたい」と「当分の間、住みつづけたい」の合計)に関しては、外国人・日本人ともに80%以上で高くなっている(外国人92.1%、日本人88.2%)。

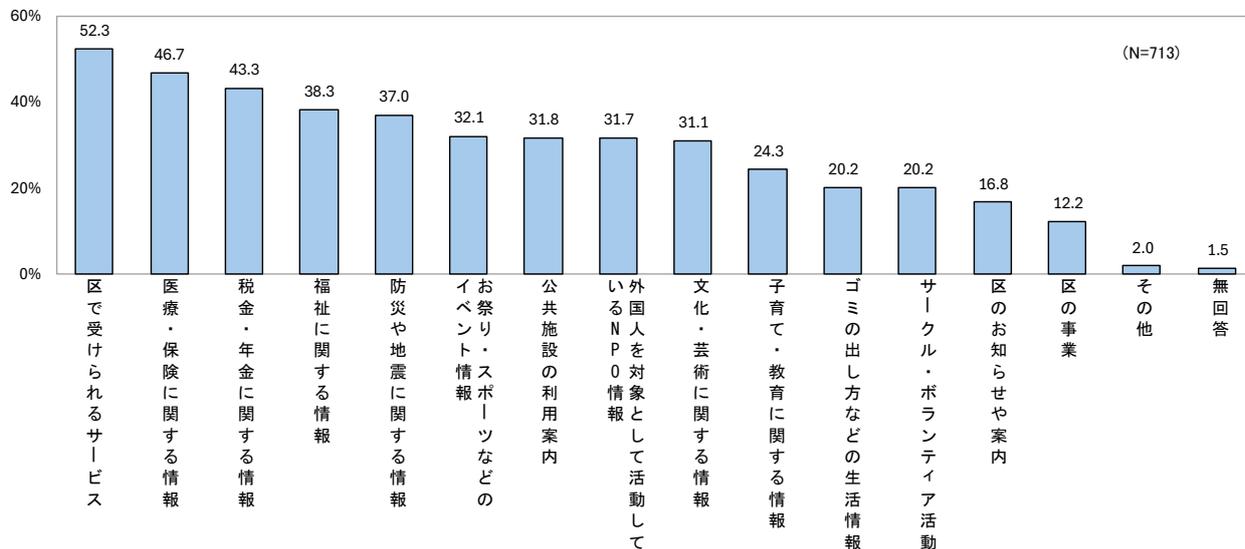
定住意向の比較



(2)生活情報の入手意向と入手方法(外国人区民:問9・10)

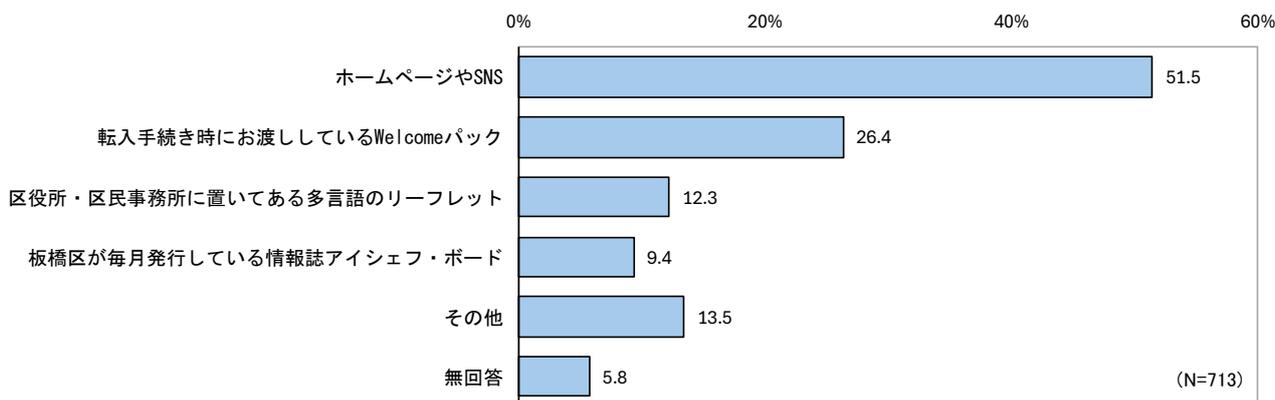
知りたい区政・暮らしの情報では、「区で受けられるサービス」が52.3%で最も高く、次いで「医療・保険に関する情報」が46.7%、「税金・年金に関する情報」が43.3%となっている。

知りたい区政・暮らしの情報



情報の入手方法では、「ホームページやSNS」が51.5%で最も高く、次いで「転入手続き時にお渡ししているWelcomeパック」が26.4%となっている。

情報の入手方法

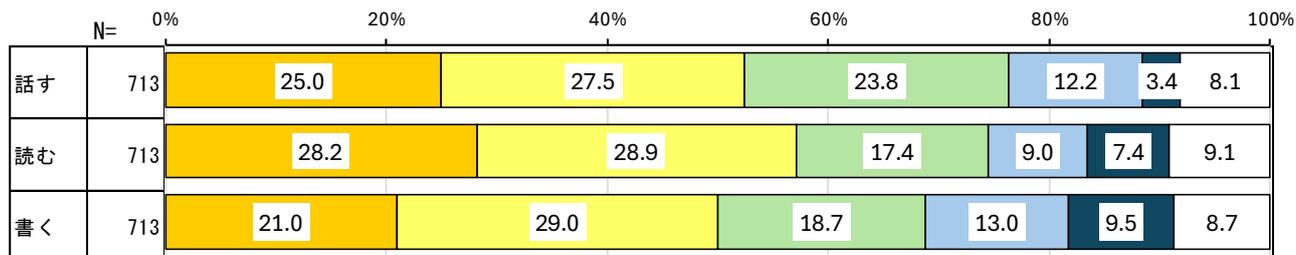


### (3)ことばについて

#### ① 外国人区民（問 12～16）

日本語動作については、「日常会話ができる」以上のレベル（「複雑で難しい日本語でも会話ができる」と「仕事で使える程度できる」、「日常会話ができる」の合計）は、「話す」で76.3%、「読む」で74.5%、「書く」で68.7%となっている。

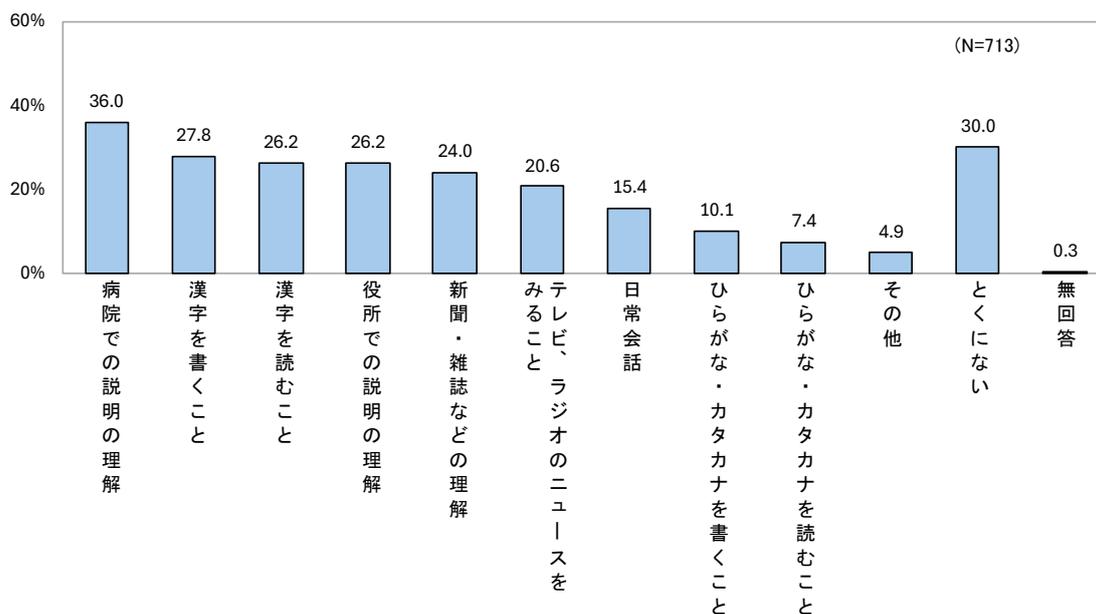
日本語動作(話す・読む・書く)



- 複雑で難しい日本語でも会話ができる
- 仕事で使える程度できる
- 日常会話ができる
- 挨拶や道案内などコミュニケーションをとることができる
- できない・ほとんどできない
- 無回答

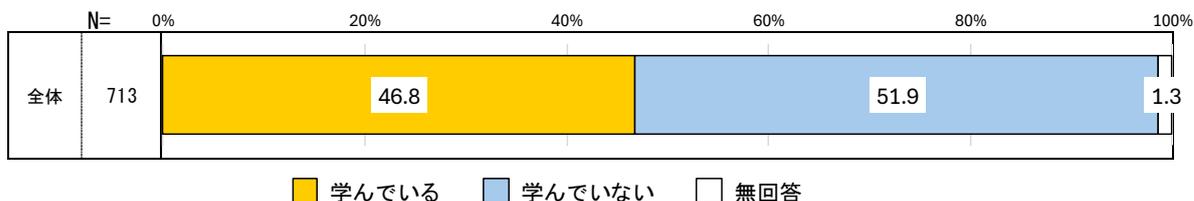
日常生活において日本語で困ることは、「病院での説明の理解」が36.0%で最も高く、次いで「漢字を書くこと」が27.8%となっている。

日本語で困ること

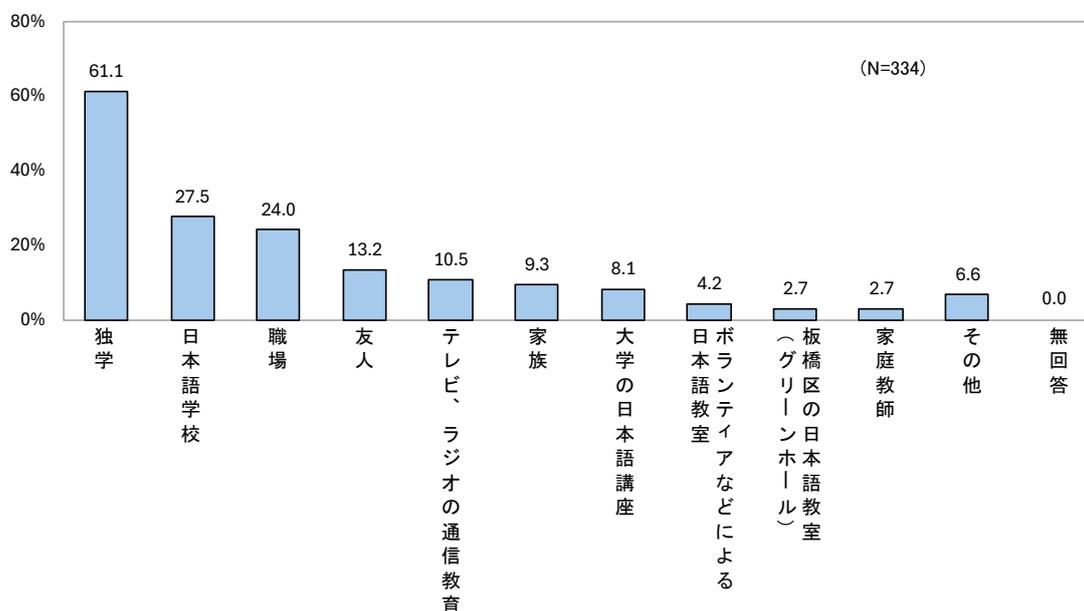


日本語を「学んでいる」(46.8%)と回答した人の学習方法は、「独学」(61.1%)を除くと、「日本語学校」が27.5%で最も多い。

### 日本語の学習

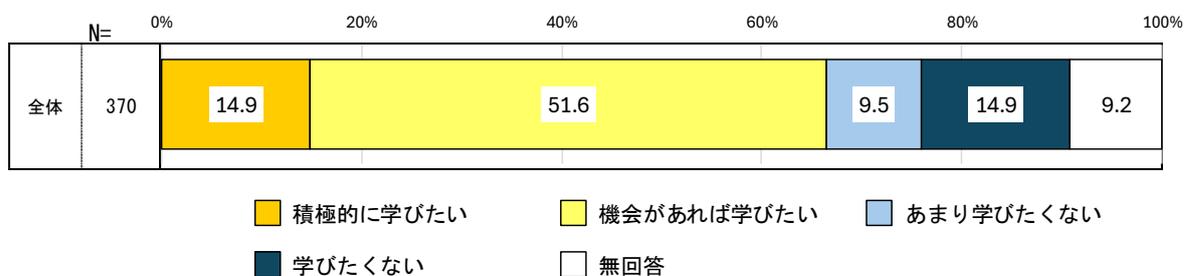


### 日本語の学習方法



現在、日本語を学んでいない人に対する日本語の学習意識の有無については、「積極的に学びたい」(14.9%)、「機会があれば学びたい」(51.6%)の合計が66.5%となっている。

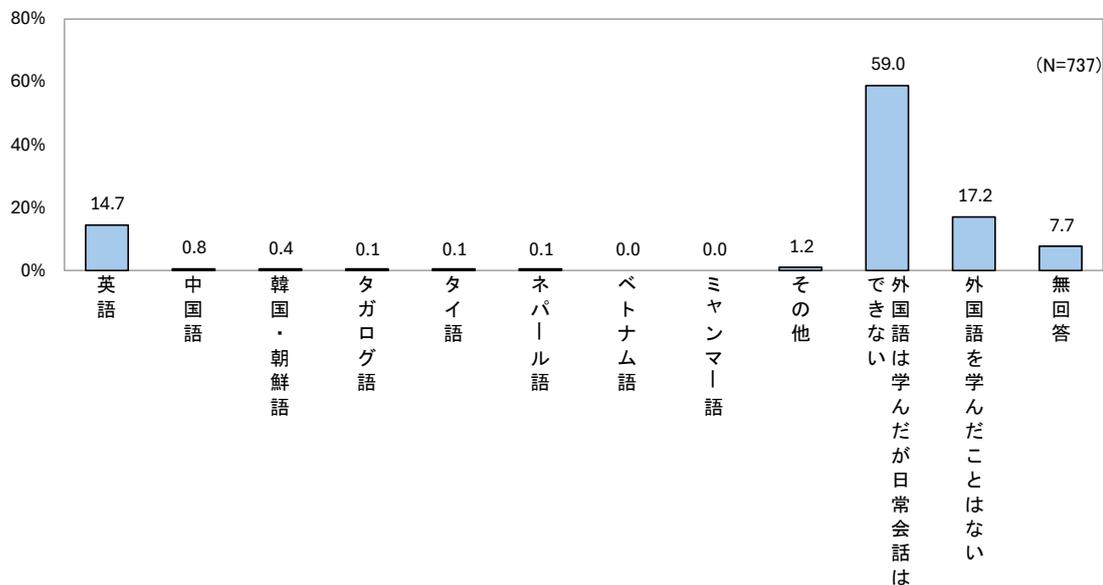
### 日本語の学習意識の有無



② 日本人区民（問6・7）

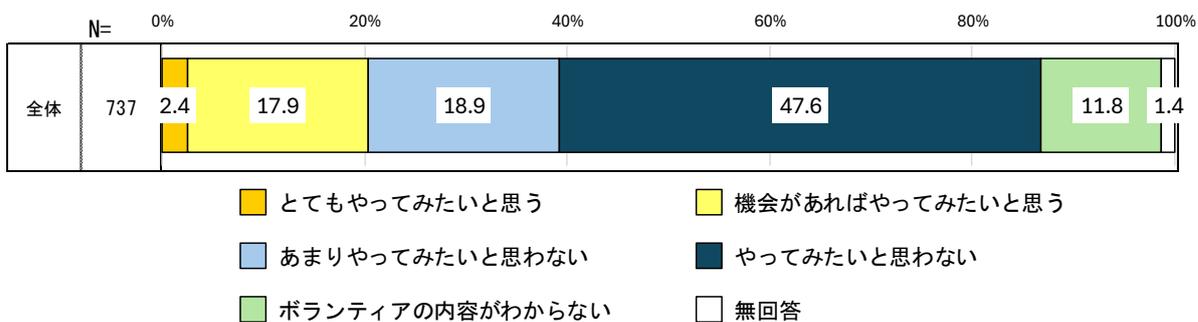
日常会話のできる外国語については、「英語」が14.7%で最も多かった。

日常会話のできる外国語



外国人向けのボランティアの日本語教師への興味については、「とてもやってみたいと思う」(2.4%)と「機会があればやってみたいと思う」(17.9%)の合計が20.3%となっている。

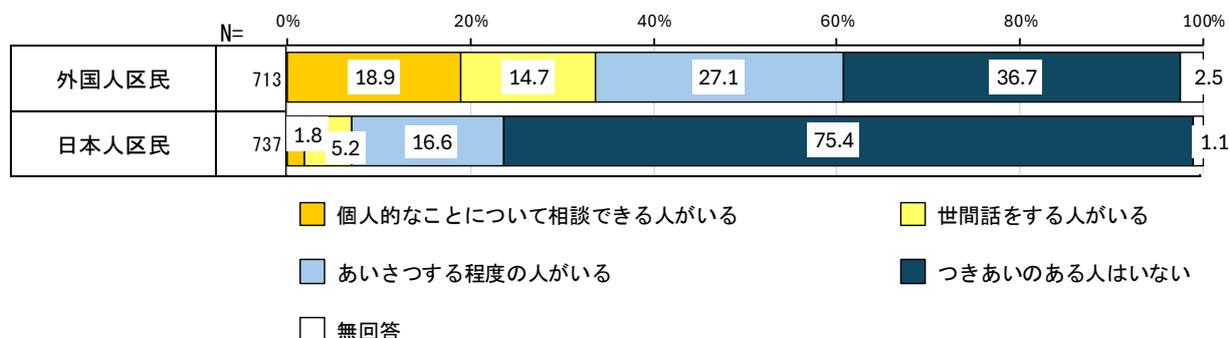
外国人向けボランティア日本語教師への興味



#### (4) 地域での生活や活動について(外国人区民:問 19・24、日本人区民:問 8・12)

住んでいる地域でのつきあいについて、外国人では「あいさつする程度の人がある」までの割合(「個人的なことについて相談できる人がある」と「世間話をする人がある」と「あいさつする程度の人がある」を合わせた割合)が60.7%であるのに対し、日本人では23.6%である。

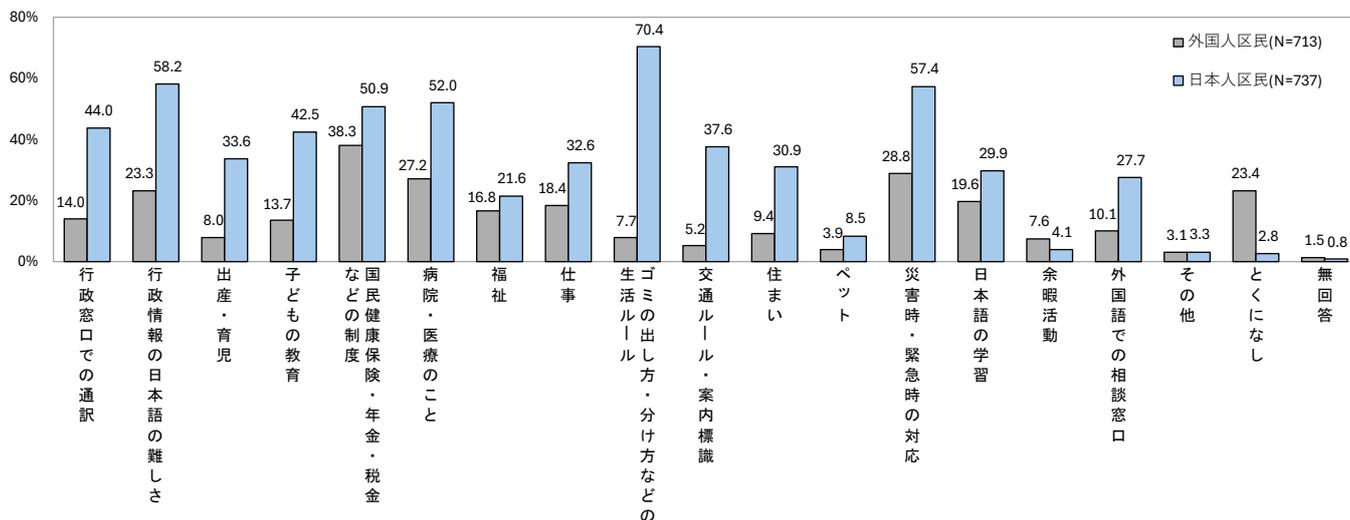
#### 地域住民との交流実態の比較



日本での生活で困っていることや心配なこととして、外国人は「国民健康保険・年金・税金などの制度」(38.3%)や「災害時・緊急時の対応」(28.8%)を多く挙げている。

一方で、日本人は外国人が地域で生活する上で、困っていたり不安に感じたりすることとして「ゴミの出し方・分け方などの生活ルール」(70.4%)や「行政情報の日本語の難しさ」(58.2%)を多く挙げている。

#### 生活する上で困っていること・心配なことの比較



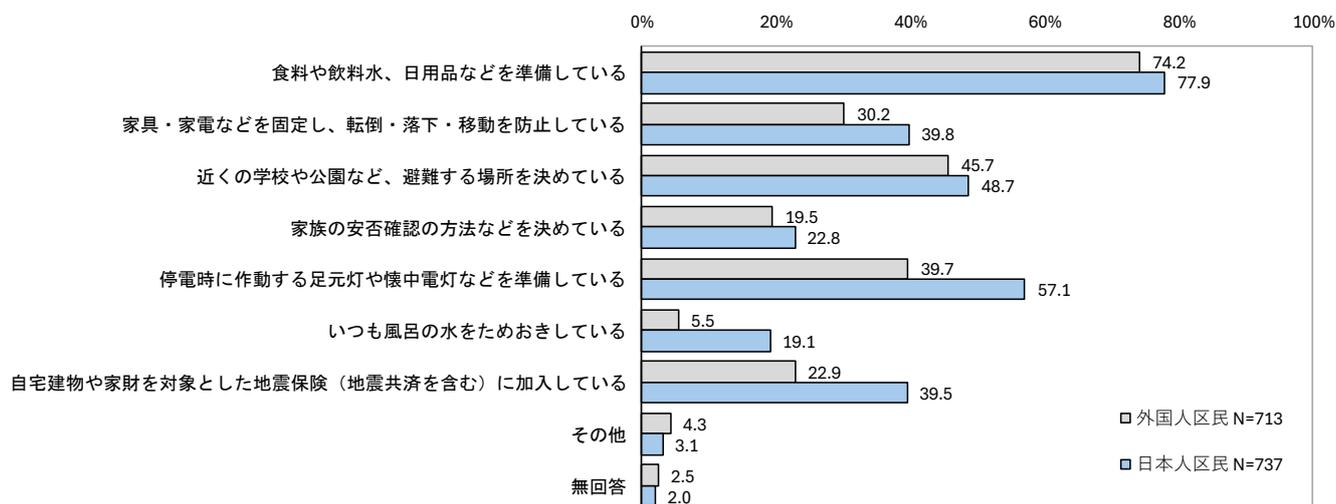
外国人区民への質問：あなたは、日本の生活で、困っていることや心配なことはありますか。(いくつでも○)

日本人区民への質問：外国人が地域で生活をする上で、困っていたり不安に感じることとはどのようなことだと思いますか。(いくつでも○)

(5)災害時・緊急時の対応(外国人区民:問 29~32、日本人区民:問 13~16)

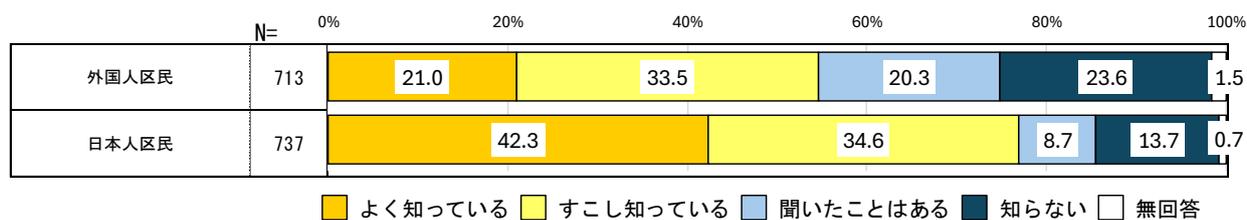
災害に対する備えについては、外国人・日本人ともに「食料や飲料水、日用品などを準備している」人が最も多い(外国人74.2%、日本人77.9%)。「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」人は外国人で39.7%、日本人で57.1%となり17ポイント以上の差となっている。

災害時の備えの比較



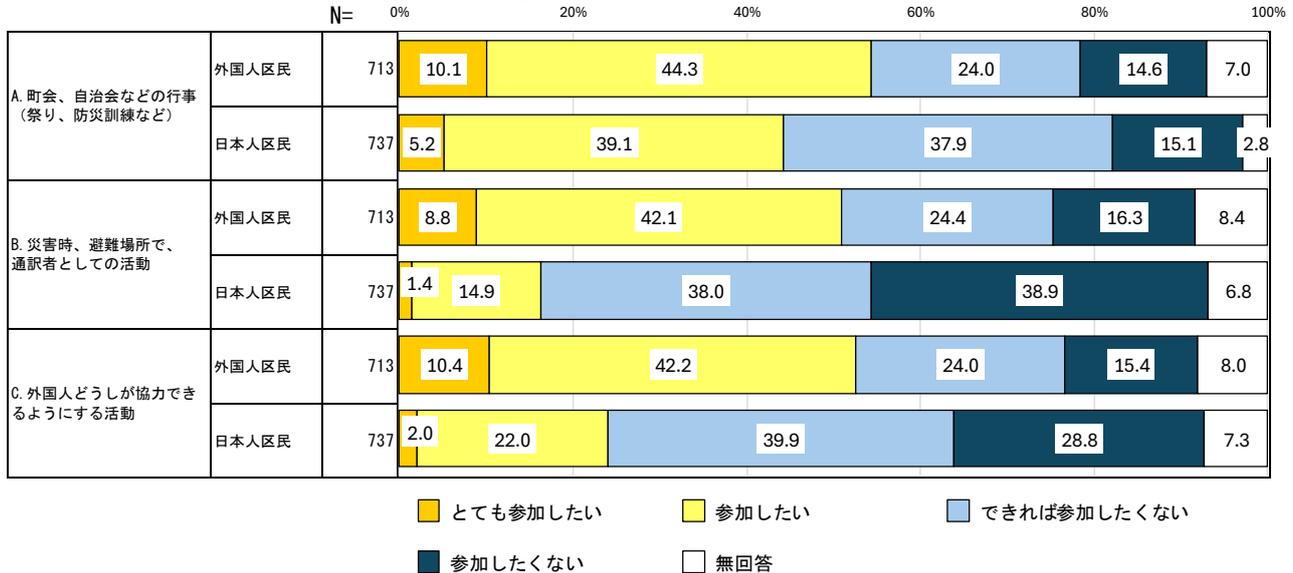
災害時の避難場所の認知については、外国人は「知らない」割合が日本人と比べて多い(外国人23.6%、日本人13.7%)。「よく知っている」「すこし知っている」の合計を比べても、外国人は54.5%、日本人は76.9%となり、22ポイント以上の差がついている。

避難場所の認知度の比較



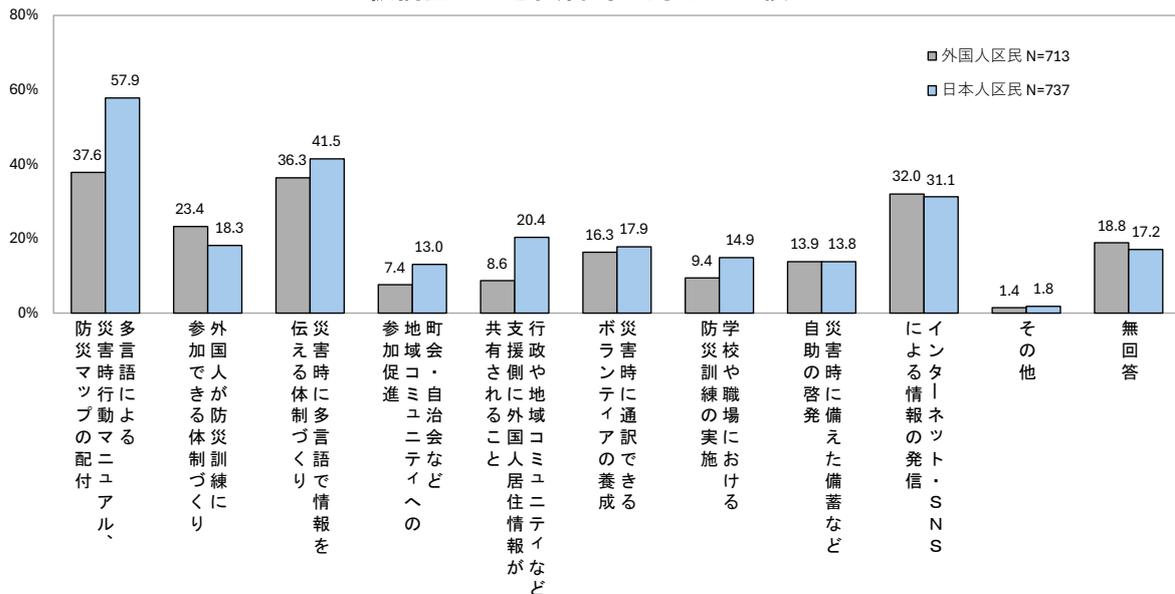
災害時に関する地域活動への参加意識（「とても参加したい」と「参加したい」の合計）では、「B. 災害時、避難場所で、通訳者としての活動」（外国人50.9%、日本人16.3%）と「C. 外国人どうしが協力できるようにする活動」（外国人52.6%、日本人24.0%）の日本人が外国人と比べて28ポイント以上低くなっている。

地域の防災活動への参加意識の比較



外国人・日本人ともに「多言語による災害時行動マニュアル、防災マップの配付」（外国人37.6%、日本人57.9%）や「災害時に多言語で情報を伝える体制づくり」（外国人36.3%、日本人41.5%）など、多言語化による災害時対応を求めている。次いで「インターネット・SNSによる情報発信」（外国人32.0%、日本人31.1%）が外国人・日本人ともに高くなっている。

板橋区に望む災害時の対応の比較



外国人区民への質問：あなたは、以下の外国人をふくむ住民に対する災害対策のうち、何を板橋区に望みますか。（あてはまるもの3つに○）  
日本人区民への質問：外国人向けの災害対策を充実させるために、とくに大切だと思うものを3つ選んでください。（あてはまるもの3つに○）

(6)子育てや教育について(外国人区民:問 37~38、日本人区民:問 19)

保育所・幼稚園に通っている子どもがいる外国人と、小学生・中学生の子どもがいる外国人に対する設問の、板橋区内での子育てにおける懸念についての項目「子育て・教育にかかるお金が高い」では、「そう思う」と「少しそう思う」と回答した合計が50%を超えており、小学生・中学生の子どもがいる外国人では64.3%にまで達している。

また、満15才以下の子どもと暮らしている日本人に対する設問の、地域に暮らす外国人が増えることによる教育面での影響についての項目「外国の子どもたちと触れ合う機会が増え、多様な価値観を受け入れることができる」では、「そう思う」と「少しそう思う」と回答した合計が79.2%と多くなっている。

板橋区での子育て・教育に関する懸念の比較

外国人区民

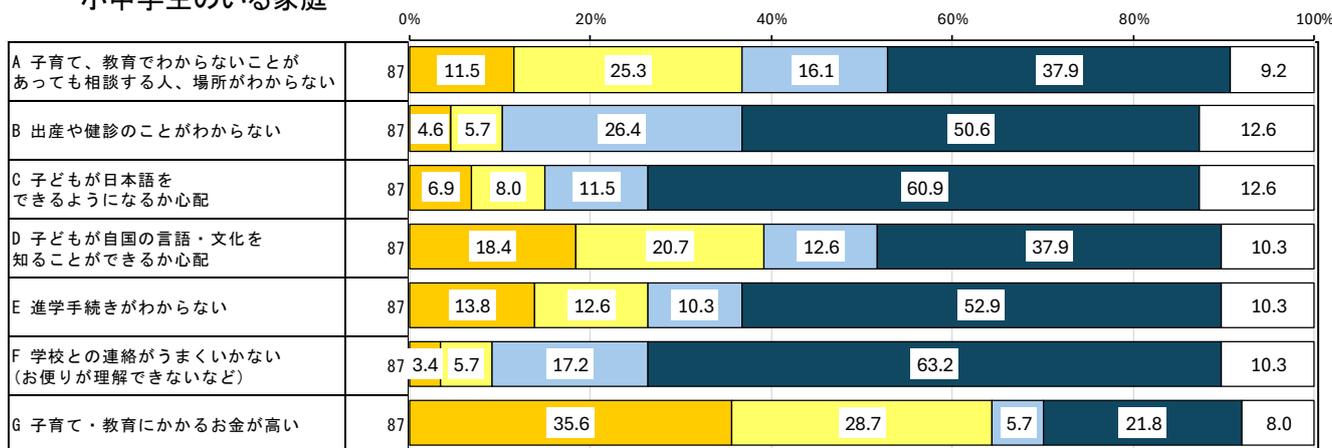
保育所・幼稚園児のいる家庭



■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

外国人区民への質問：[保育所、幼稚園に通っている子どもがいる人への質問]あなたは、今、下の子育て、教育に関することについて、どう思いますか。(それぞれひとつだけ○)

小中学生のいる家庭

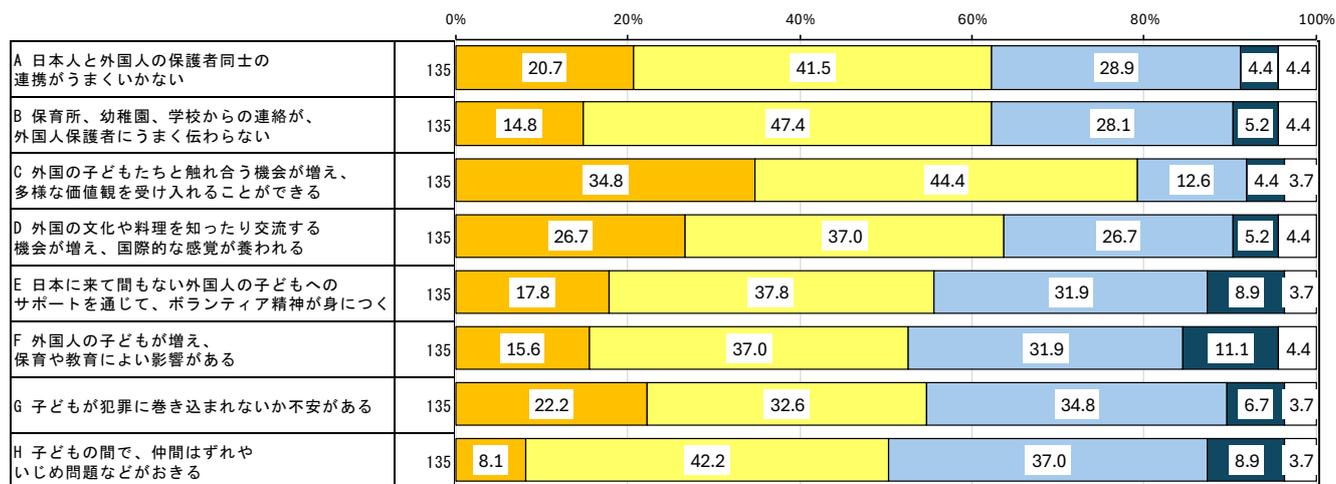


■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

外国人区民への質問：[小学生・中学生の子どもがいる人への質問]あなたは、今、下の子育て、教育に関することについて、どう思いますか。(それぞれひとつだけ○)

日本人区民

満 15 歳以下の子どもがいる家庭



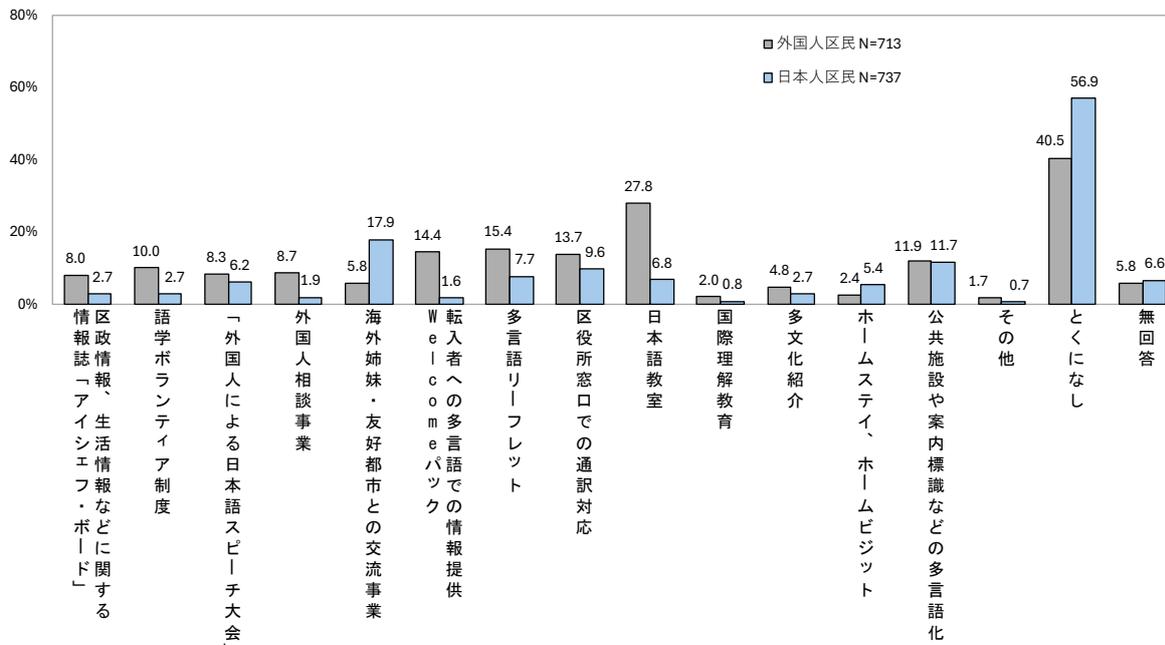
■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

日本人区民への質問：[満 15 歳以下の子どもと暮らしている人への質問] 地域に暮らす外国人が増えることによる、以下の項目の子育て・教育面での影響について、どう思いますか（それぞれひとつだけ○）

(7) 多文化共生に対する意識(外国人区民:問 40・41・43～45、日本人区民:問 20・21・23～25)

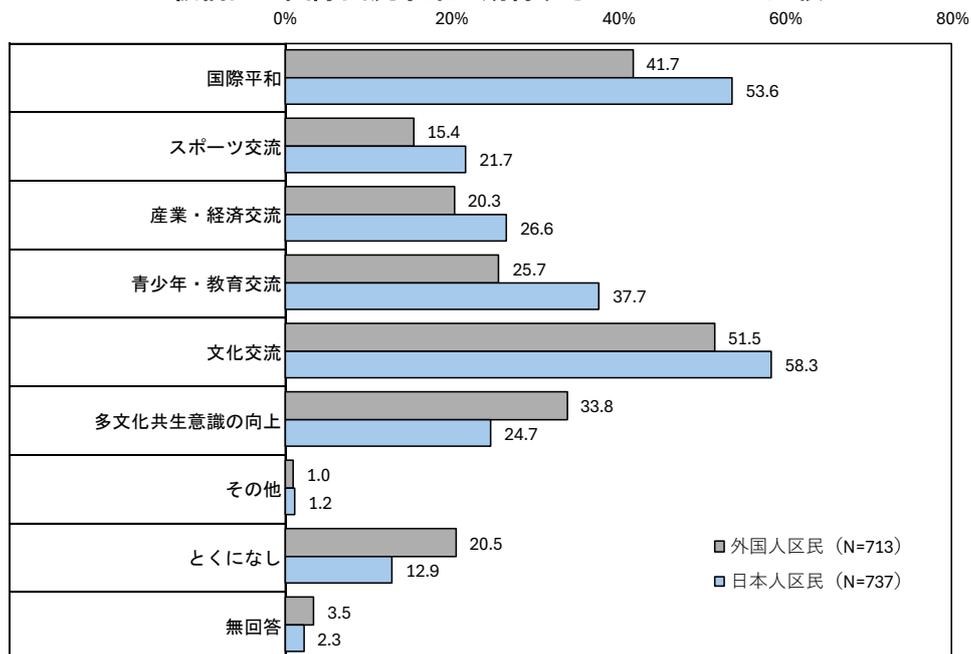
板橋区の多文化共生事業の認知度について、外国人は「日本語教室」(27.8%)や「多言語リーフレット」(15.4%)、「転入者への多言語での情報提供 Welcome パック」(14.4%)が上位に挙げられるが、日本人は「海外姉妹・友好都市との交流事業」(17.9%)や「公共施設や案内標識などの多言語化」(11.7%)、「区役所窓口での通訳対応」(9.6%)が上位を占めている。

板橋区の多文化共生事業についての比較



国際交流事業に期待することは、上位2位は外国人・日本人ともに(1位:文化交流、2位:国際平和)だが、外国人では「多文化共生意識の向上」が33.8%で3位であるのに対し、日本人では「青少年・経済交流」が37.7%で3位となっている。

板橋区の国際交流事業に期待することについての比較



「多文化共生のまちづくり」を進めていくにあたって、地域の日本人が特に取り組むとよいと思うものを聞いたところ、外国人・日本人ともに「外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめてほしい/つとめる」を挙げる人が27%以上で最も多かった。

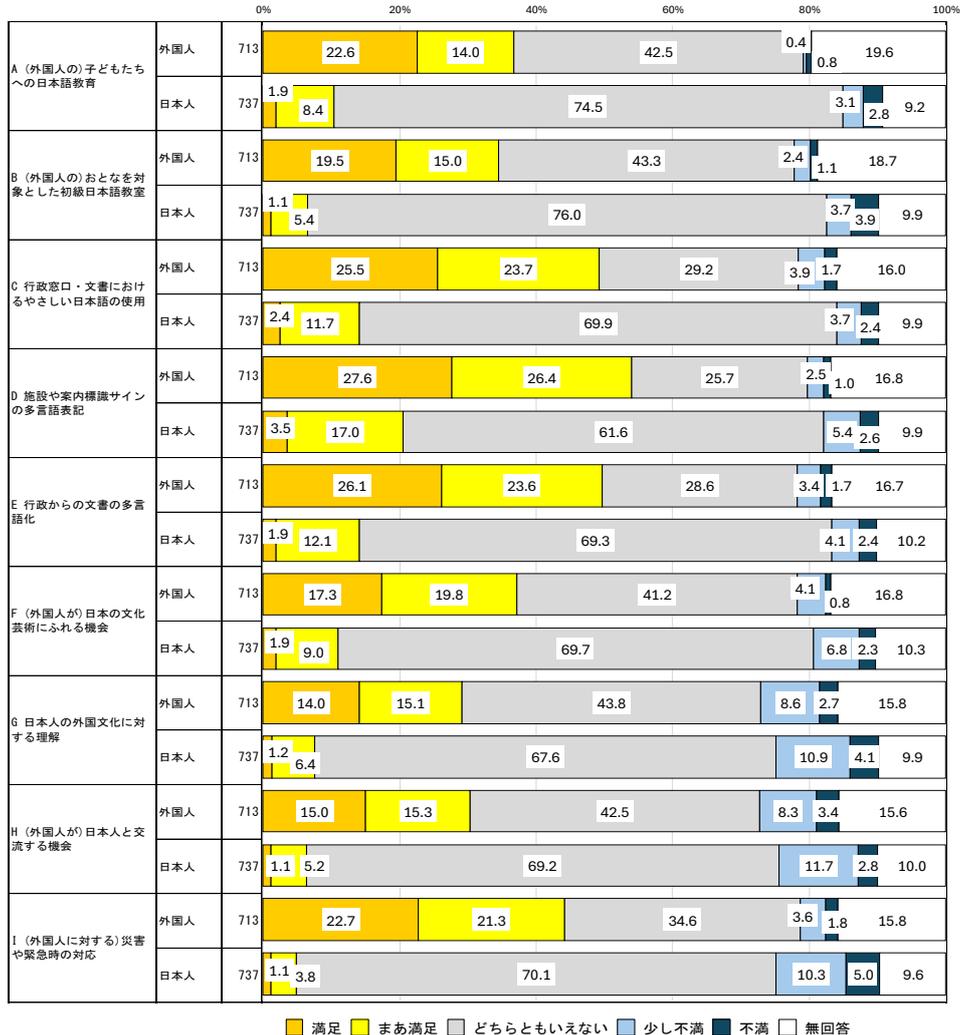
### 多文化共生のまちづくりに対する意識の比較



- 外国の文化、生活習慣を理解してほしい/つとめる
- 日頃から、外国人にあいさつや、声をかけてほしい/言葉をかわす
- 日本語、日本の習慣を外国人住民におしえてほしい/紹介する
- 外国語を学んでほしい/習得するようにつとめる
- 地域の外国人住民との交流会など、国際交流の行事に参加してほしい/参加する
- 無回答

区の多文化共生のまちづくりの現状に関して満足度（「満足」と「まあ満足」）の合計をみると、外国人・日本人ともに1位は「施設や案内標識サインの多言語表記」（外国人54.0%、日本人20.5%）となっている。外国人の2位は「行政からの文書の多言語化」が49.7%となり、日本人の2位は「行政窓口・文書におけるやさしい日本語の使用」が14.1%となっている。

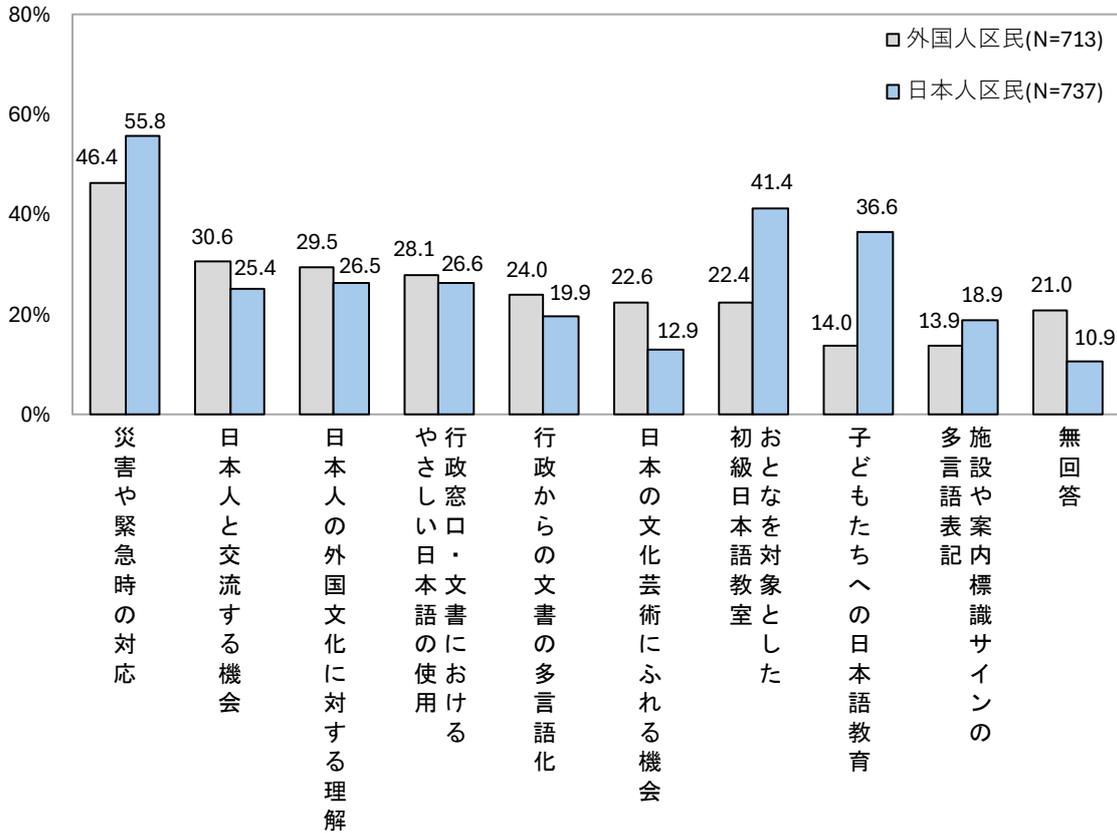
### 多文化共生事業の満足度の比較



- 満足
- まあ満足
- どちらともいえない
- 少し不満
- 不満
- 無回答

板橋区が今後重点的に取り組むべきだと考える施策は、外国人は「災害や緊急時の対応」が46.4%、「日本人と交流する機会」が30.6%、「日本人の外国文化に対する理解」が29.5%となっている。一方、日本人は「災害や緊急時の対応」が55.8%、「おとなを対象とした初級日本語教室」が41.4%、「子どもたちへの日本語教育」が36.6%となっている。

板橋区が今後重点的に取り組むべきだと考える施策の比較





板橋区多文化共生に関する意識調査報告書 概要版

---

令和7年1月発行

板橋区文化・国際交流課 文化・国際交流係  
〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号  
TEL 03-3579-2018  
刊行物番号 R06-114